

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	紋枯病 トビイロウンカ	並 やや少	並 やや少
大豆	ハスモンヨトウ (防除情報第11号継続) 吸実性カメムシ類	並	やや多
いちご	うどんこ病 炭疽病 (<i>G.cingulata</i>) ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 やや多 並 やや少	並 やや多 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	並
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	- やや少	並 やや少
果樹共通	カメムシ類 (防除情報第10号参照)	並	並
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ チャノココクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 やや少 やや多 並 やや多 並 並	並 やや少 やや多 並 やや多 並 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(83筆)の結果、発病株率は1.3%(3.3%)、発生圃場率は42.2%(42.9%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は42.0%(27.3%)であった。

2. トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 発生状況

ア 9月上旬の巡回調査(83筆)の結果、株当たり虫数は0.0頭(0.5頭)、発生圃場率は13.3%(39.5%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は46.0%(39.3%)、株当たり虫数は0.9頭(1.5頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 9月中旬に株当たり成虫・老齢幼虫を5頭以上認めたら早急に防除する。
- イ 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りが大きい。このため、防除を行った圃場でもその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。
- ウ 本虫は株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧に行う。
- エ 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境に配慮し、薬剤の飛散に十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

平成23年9月9日付け、**病害虫発生予察防除情報第11号**を継続。

なお、その後の発生状況については、以下のとおりである。

(1) 発生状況

- ア 9月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は11.1%(9.8%)、株当たり虫数は0.4頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は40.0%(48.6%)であった。
- イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は20.0%(18.8%)であった。
- ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、9月1半旬にピークが認められている(図)。

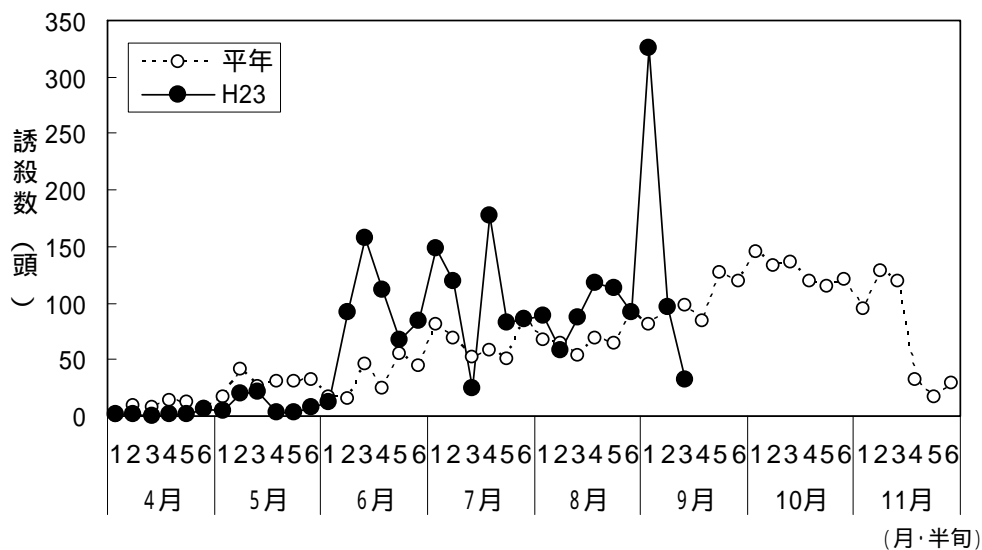


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は0.8%(0.4%)、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は20.0%(13.2%)であった。
- イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は2.0%(2.8%)、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.0%(1.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布は、薬液が葉裏、葉柄に十分かかるように散布する。
- イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。
- エ 定植後は、定期的に薬剤の予防散布を行う。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は27.3%(11.1%)であった。

イ 病害虫防除員からの報告によると、多~並の発生である。

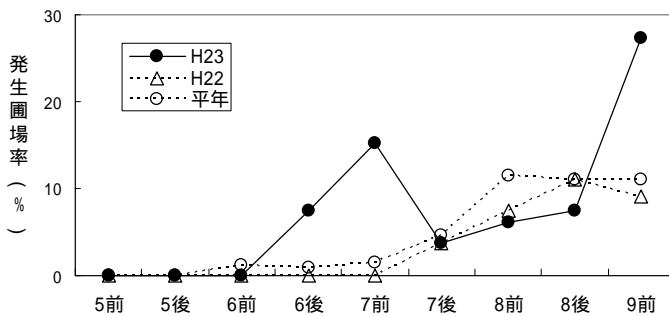


図 炭そ病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

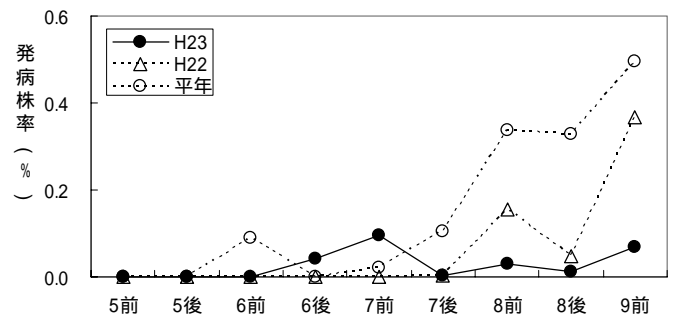


図 炭そ病(*G.cingulata*) 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病した株および発病のおそれがある株は速やかに処分するとともに、定植前の選別を徹底し、疑わしい株は定植しない。
- イ 本圃で発病を認めた場合は速やかに抜き取り圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は伝染源となるので圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 強雨や台風の前後など発生のおそれがあるときは薬剤散布を徹底する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は1.0%(3.2%)、発生圃場率は30.3%(21.8%)であった。

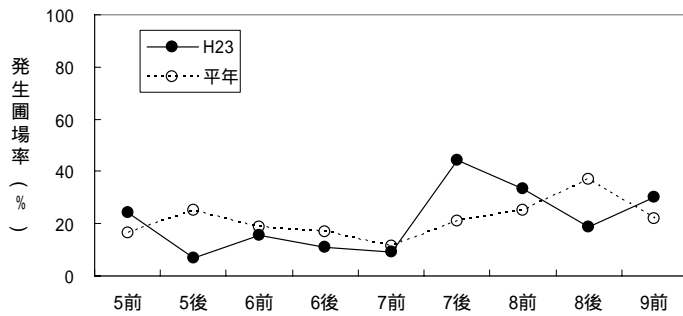


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

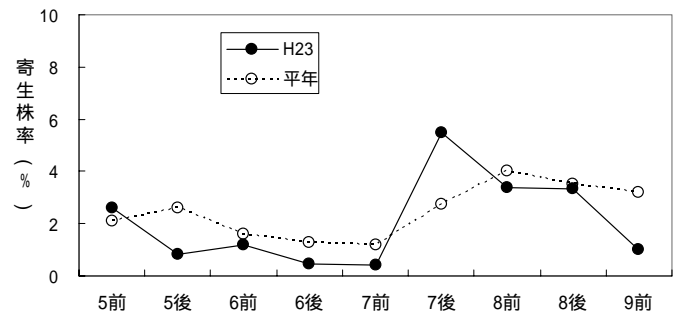


図 ハダニ類 寄生株率の推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本圃に持ち込まないように定植前の防除を徹底する。
- イ 薬剤散布は散布むらを避けるため、葉裏まで十分かかるよう丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。
- エ 本圃で天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるので、使用時期に注意する。

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、食害株率は0.7%(4.3%)、発生圃場率は15.2%(45.6%)であった。
- イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、9月1半旬にピークが認められている(大豆の項参照)。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査(8筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm x 22.5cmの白色板に5回 x 10ヶ所)は、2.1頭(過去4カ年平均10.0頭)、発生圃場率は62.5%(過去4カ年平均61.1%)であった。
- イ 向こう1か月の気温は平年並または高い見込みであり本虫の発生に好適である。

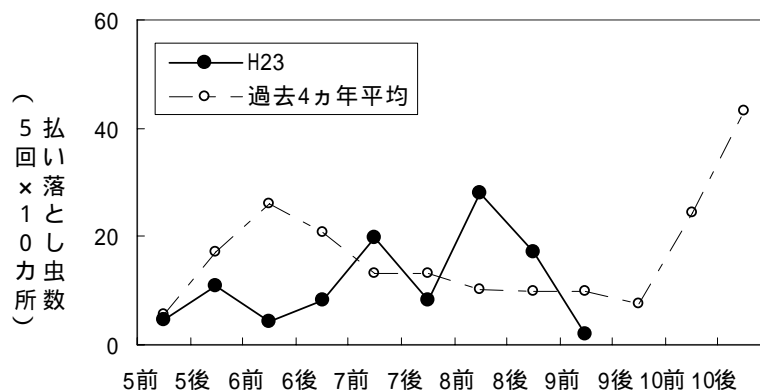


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成23年9月16日付け1か月予報によると期間のはじめは、曇りや雨の日が多いが、その後は、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は3.2%(7.9%)、発生圃場率は41.0%(51.6%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

平成23年9月1日付け病害虫発生予察防除情報第10号を参照。

なお、以後の発生は以下のとおりである。

ア 予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は、地点による差はあるが平年並~やや少なくて推移している(図)。

イ 病害虫防除員の報告によると、一部のかんきつ園には飛来が見られている。

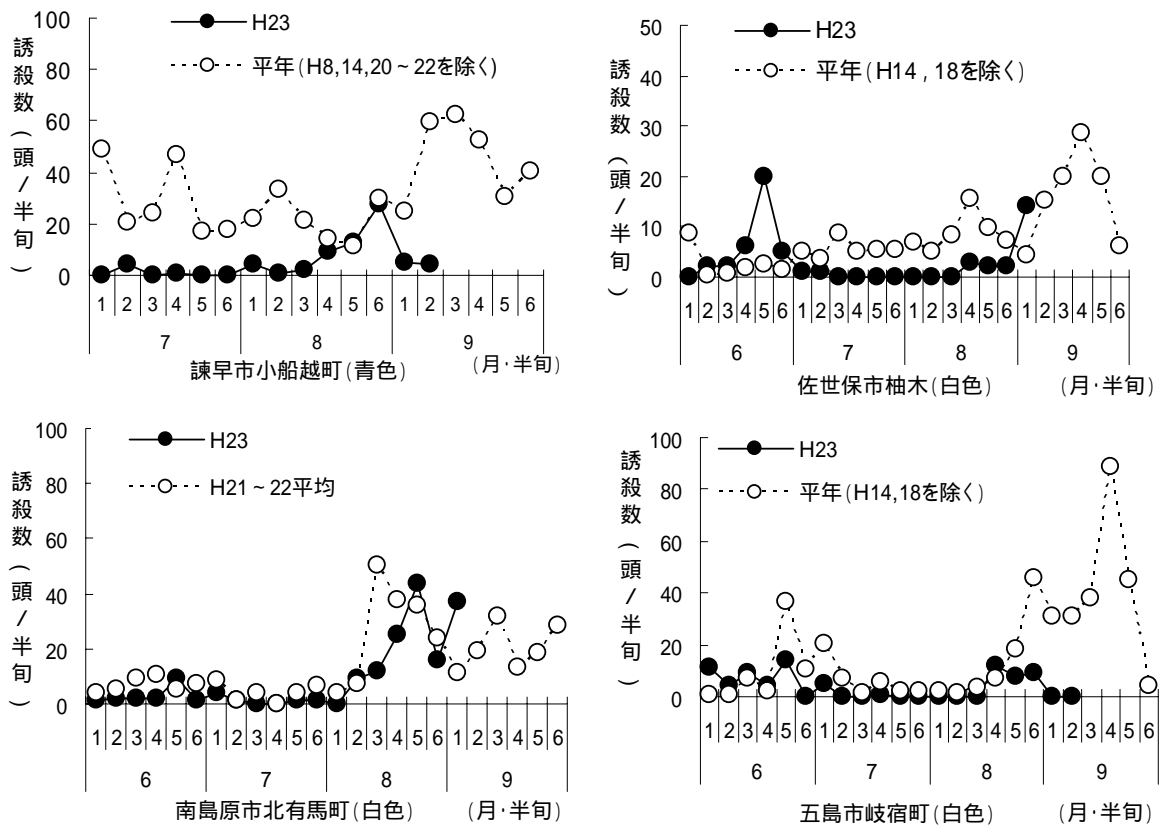


図 予察灯による果樹カメムシ類誘殺数の推移

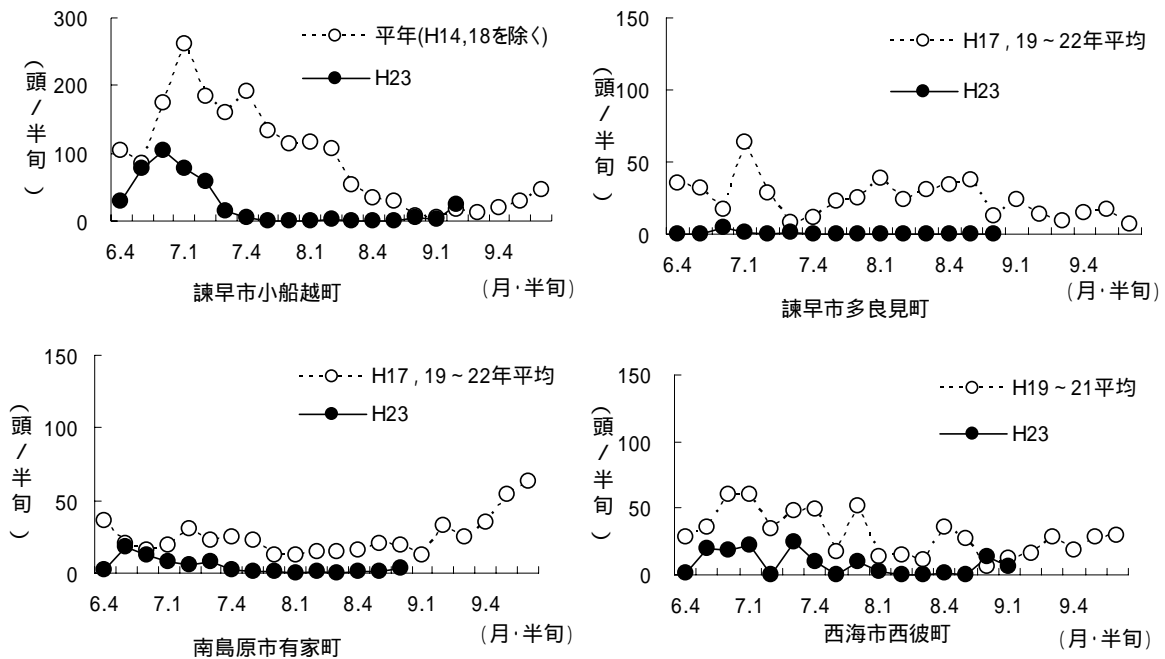


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は4.7枚(5.5枚)、発生圃場率は65.0%(46.9%)であった。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.2%(1.1%)、発生圃場率は15.0%(21.3%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は28.3頭(14.0頭)、発生圃場率は100.0%(67.2%)であった。

4. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生は認められなかった(1㎡当たり巻葉数0.3枚、発生圃場率17.5%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

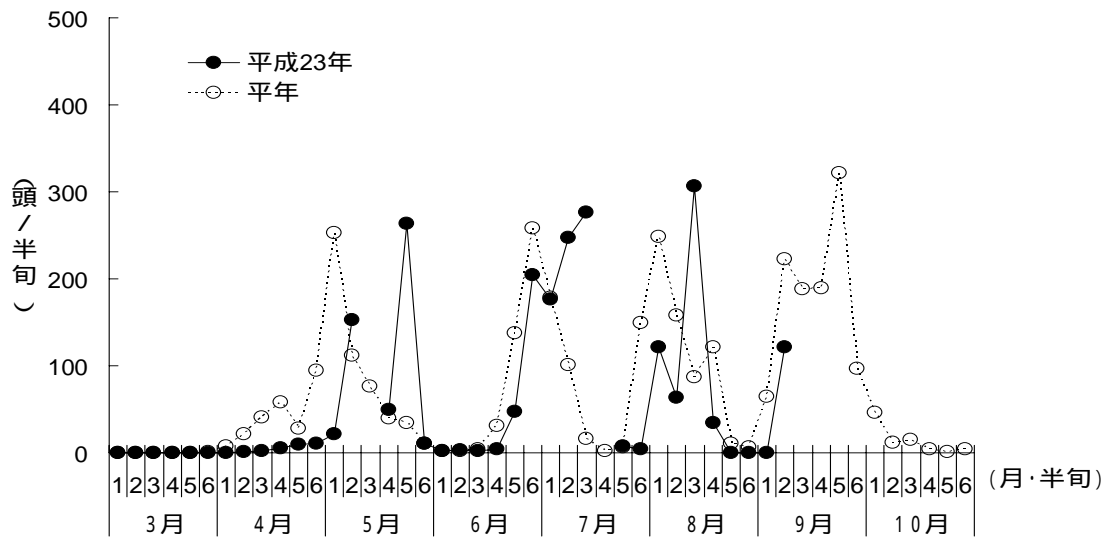


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

注：5月3半旬、7月4半旬は欠測

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は4.2枚(0.8枚)、発生圃場率は70.0%(26.3%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）平年よりやや多く推移している（図）。

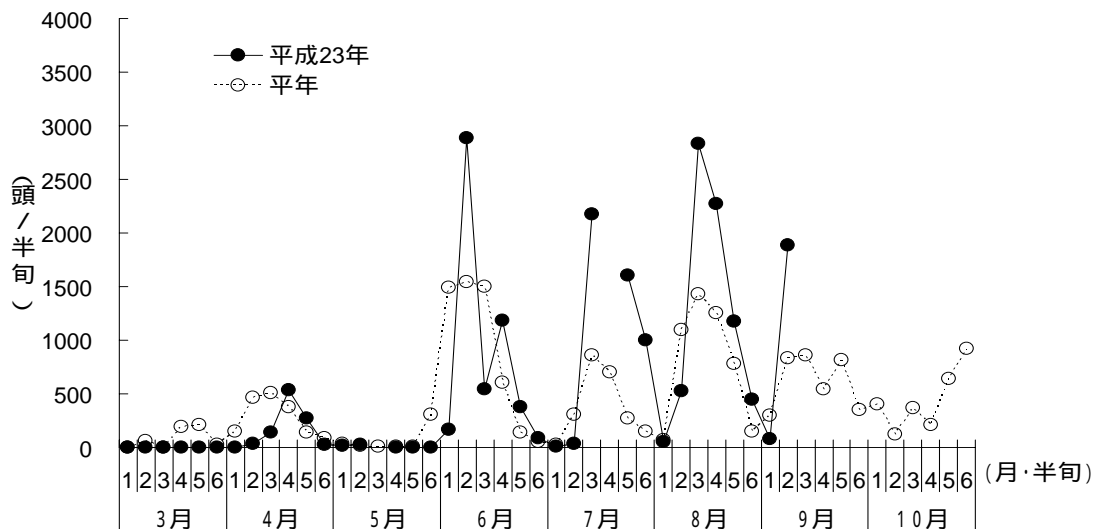


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

注：5月3半旬、7月4半旬は欠測

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.7頭(1.2頭)、発生圃場率は65.0%(40.0%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は12.5%(3.1%)、発生圃場率は35.0%(23.1%)で、一部多発圃場が見られた。

